

## 展望の竜王山から寒牡丹の長谷寺へ

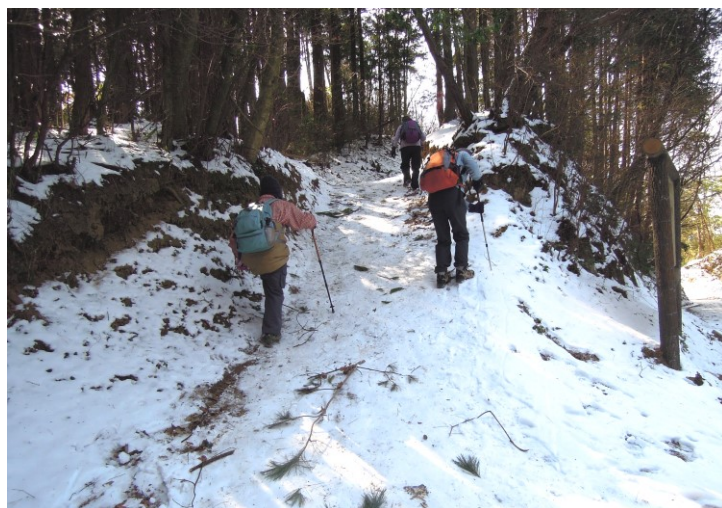
土庫病院友の会山歩きクラブで、5月に「天理の竜王山から長谷寺へのハイキング」を例会とする案が確認された。

そのリーダーなどを務める女性たちから「下見に行くので道案内を」と請われ、2月25日電車で登山口に向かった。桜井駅(奈良県)で近鉄から乗り換えて、JR奈良行きの中中に座っていると、登山靴を踏み鳴らして女性3人が乗り込んできた。さらに柳本駅のプラットフォームでは、後の車輛から降りた2名が手を振って近づいてきた。総勢6名、80歳代1、70歳代2、60歳代3。最近の例会参加者年齢構成とほぼ同じだ。下見部隊として申し分の無いメンバー。

例会当日出発点となる長岳寺駐車場は木々に囲まれ、ヒヨドリやメジロの囀りが響いていた。9時出発し、畑道にでると雌雄のジョウビタキが尾を振りながら愛嬌を振りまき、高い樹の梢でシジュウガラだろうか、せわしげに飛び交っている。

すぐに山道に入り、杉・桧林の中の急坂をゆっくり登って、トイレのある林道との交差点に10:15着。

竜王山は戦国時代豪族十市遠忠の築城による山城、竜王城とも呼ばれ、現在トイレのある場所を境に北城と南城とに別れていた。まず北の展望台にと林の中の遊歩道を歩き出したが、そこにはたつぷりと雪が残っていて滑りやすく、引き返して竜王山山頂(南城)に向かう。こちら林道からの取り付きは凍りついた雪の斜面となっており、アイゼン持参の人はそれを装着



竜王山頂上直下の坂道



**フクジュソウ** して注意深く登る。

山頂からは大和平野が一望のもと、その大和盆地を挟んで、毎朝登っている二上山が可愛らしく並んでいる。山座同定と眺望を楽しんで11:00南に向けて下る。林の中の道は落葉が分厚く積もって膝に優しいが、凍った残雪もあって滑り易い。

11:20舗装林道に出る。林道はやが





てビニールハウスや畑の中を曲折しつつ抜け、11:40「ハイキングコース」表示板のある分岐に。ここから一山越すと県道との交差点に出、県道を渡って再び山道に入っていく。雑木林の中の稜線を歩き、12時過ぎに初瀬山(548m)に到着。ここで昼食。初瀬山山頂は台風の傷跡なの

か、倒木、伐採木が横たわって惨憺たる状況だが、その分陽光が差し込んで暖かい。

12:30出発、長谷寺に向けて下る、この狭い登山路を誰かがバイクで走っており、その轍(わだち)が登山路に不規則な凹凸を作って歩きにくい。「こんな道まで単車を乗り入れるなよ」と悪態つきつつ下るが、轍に気を取られて道を間違えてしまった。

すぐに引き返して正しいルートに戻り、更に下って14:00長谷寺に着いた。

長谷寺は柔らかい冬日を浴びて、いかにものどやか。寒牡丹が咲き残っており、フクジュソウも黄金(こがね)色の花びらをひろげて、一行を迎えてくれた。春はもうそこ!

## 「大和の中世史」の2回目 大和の中世・支配体制の特徴が明らかに

2月24日(土)午後大和高田市の健生荘で健生会友の会主催の「ふるさとの歴史を学ぶ」連続講座8回目が開かれました。

この日の講師は吉井敏幸天理大学教授で、「大和の中世・第二話—興福寺の大和一国支配と国衙」と題しての講義を行いました。

吉井講師は、平安時代に藤原摂関家の勢力をバックに、興福寺が強大になり、大和一国の事実上の支配者となり、東大寺と多武峰を除く大和の諸寺を配下に治め、各地の侍をも支配したことを史料などを紹介しつつ明らかにし、これが諸国一般の支配機構とは違う大和独自の特徴だと説明しました。

受講者は、身近な地名、寺社名を挙げて解き明かされる中世大和の実態に驚いたり、感心したりで、熱心に聴いていました。

次回は3月24日(日)午後2時~4時半。会場は健生荘多目的室。資料代300円が必要です。

お問い合わせは健生会友の会事務局(0745-22-2989)まで。

